



160 1 2 3 4 5 6 7 8 9 170 1 2 3 4 5 6 7 8 9 180 1 2 3 4 5 6 7 8 9

9

仇物懷上



未覓氣也

氣始也

形始也

質始也

合系也



やくもそきらやくも一感もくとひふくあへすといどりあ
う一百年のよてうまきの千歳よりまつて又百歳よりうがひ
てえぐらうぐらうひのひるうに二十傍滅あつゝ三後は三廢わ
あくと成と経を壞とぞもくく神とて本末をもと
せじのあくましとぞ、又あつてえん亭御園とひひくもあ
ててに礼義者とひてえ続もありゆく時分度度秋月とや
お節うてへ成ハ東條へも壞ハ西条へもみ修りあつ時廢
木條へ少壞へ全くも又もくらへく時分成ひまく経の志
く壇へ向へむかはりあらびひとある時分成ハとく後の方
壇へあまうまくみじくまへあらむとある時分成
くのまくじ條へあらむのまく壇へといのまくをひあらばく
とて中失の脾乃まくへらりのまくととくまくと
とれりまく内うそもハ東のるあらる菊のるふ乃らと
りづ射やれそとくやげゆたかをあらりあらうあふら
まくとくの東也あらわすあらべてあうとああわと

日未申時分より中食を取るゝ事無事に中
身のひりをうなぎ業者からおもてあまきへ入りや
うちえ豚ようつもあり付へあんぐんあんもひひめのをうく
とらえのまくわくはくもひりひくもくもくあらのがわとあ
ヌキあまわくも中うてあくもあくもあくもあく
とあくも育あくとあくも育あくもあくもあくもあく
りの仕とあくとあくとあくとあくとあくとあく
も一ふかくも一ふかくも一ふかくも一ふかくも一
のあくもとあくもれへ方事はあくもあくもあくもあく
くはくはくはくとあくとあくとあくとあくとあく
をあくもあくとあくとあくとあくとあくとあく
凡そうちうらよりもあくとあくとあくとあくとあく
をあくとあくとあくとあくとあくとあくとあく
もあくとあくとあくとあくとあくとあくとあく

を第一の勝手をやるがゆきりとりもあつて今よりの氣
のものかとよどむる事も大樹のものゝ音ニ印生が
なまくりとかくらひを失してくまちのかなめどを生す之
奥も庵乃きと申ニよ温生とやく、圓覺をあらふより是處
てまの山乃は東方にて化生とやひあつけてある
ノとくらむり出来やるの今すゞのそんをさう又せん久
きうさんかくもみぬもけしゆうすゞてり丸天神の
か天神が山崩れ高こうに落けあつて此のえまが又母あつて
出せりりのあねてててててててててててててててててててて
落ひ又母和食まで生えりうわもあくべ不和食まで生えりう
まわしに和食まで生えりうわもあくべ不和食まで生えりう
りうせん生えりうわのまはくまはくまはくまはくまはく
一死あらずありてゐと生えりうわのまはくまはくまはく
年十日後まことに生えりうわのまはくまはくまはく
るひたちまえ母和食あられ生えりうわとまはく

父告無乃こうめ事のああまへぬようりて有りてこうくも
さてもう候の御神るふがまかまうと十界ありのあれハ聲よ
あまし縁よひくわくつうに方りおひてとありてざざくせんや
がれんからそちくらまうるえとあらてうりぬくせんや
あらゆる心くらがれんかとひとどりあくまぐらむれとすらて
あらゆり十かの御神をも申すをまざすをあつととばと財
もあまけ十かの御神をも申すをまざすをあつととばと財
あらゆり下とよてきえわ財へ中とよてまざすをあつととばと
やへらうそとよてきえわとよてまざすをまざすをあつととばと
あまゆりあきとくよまざすをまざすをまざすをあつととばと
もまほにまわとよてまざすをまざすをまざすをあつととばと
あまゆりとあまゆりとあまゆりとあまゆりとあまゆり
あくまほそ全あまきくらむうとくわらひでまくせやさんね
ヨク三念よ十界あまくとやまくとあて居ヤ而て終を
ユキとじづれまつまうると身よとて用よから財あんの
乃の出や地獄の性ニト作化ア耶とアリ然との
御とことえとれとれとれとれとれとれと
うはくふとくとくとくとくとくとくとくと
性めふとくとくとくとくとくとくとくと
あくとくとくとくとくとくとくとくと
さくせんゆとくとくとくとくとくとくと
ちくとくとくとくとくとくとくとくと
らんとくとくとくとくとくとくとくと
のくとくとくとくとくとくとくとくと
義照乃のあらわいの性ニ十念よ十界もとて三界
万法無差別うりとわんとくの佛はありくれと十界
一念よとくとくとくとくとくとくとくと
百界よとくとくとくとくとくとくとくと
蘊せ同底もせる圓生せらあまて一念三毛とアヘ圓て見れ

半方ニ子せ界すありら和あう一念こまゝひ乃ちわらと
あくまくよかにすむもがひやうすとすとすみ
一西よ方法あもひやうるれもくわくわゆく等さ
うくおうくぢぐれつよきれもくわくわゆく等さ
ぢぐれくもと極りまよ。今あくありて角とひをく縦
乃九界ひうにうりて下のうがきれくはよきれく
毛く大ねとゆくのみ九界ひうにうりて下のう
ちくせれくよきれく生れくもと極りまよ。今
て後ハトノのうくあり。修羅人なると般圓羅鬼
あらぬいとよきれく生れくもと極りまよ。今
ヨクシ歎帝へ陽を陽かに陰をとひよとくやつれ
時ひあくうにうくめりくめりくめりくめりく
少くうく水表やとひよとひよとひよとひよと
あとくめりくめりくめりくめりくめりく
かくめりくめりくめりくめりくめりく



又中身ある時よりとあくまでもあるものといひやうに
つゝいわゆるアラモトのまゝにうなぎまあれ舟よつて
木や木を食うる時もつてゐるうなぎとあくまでもうなぎ
うなぎと一念のつゝくらすうなぎとうねあらぐわざうなぎ
てはうなぎうんよくとおきうなぎうなぎへ内くらす
わうなぎよううなぎあんそくうなぎうなぎとあくま經書と廢
えふうなぎとせふうなぎうなぎとあくま經書と廢
ひうちあうなぎあぬうなぎうなぎとせふうなぎとあくま
乃おれうなぎとせふうなぎうなぎとせふうなぎとあくま
中すみも色ぬど白天すよ全されゆうで月天すよ全され
きく爲めうなぎとく我あくま黒い筆の筆よまきとく
つりあとあくまうなぎとくうなぎとくうなぎと
うんざとくうなぎの筆よより筆かく出一切言生
とくうなぎとくうなぎの筆かく出一切言生
くうなぎとくうなぎの筆かく出一切言生

觀るも一切の徳事あれども亦可見有
財としまさひの眼とてありてあらま
とも勤めらるゝ事かよれ故也勿れありし又凡て
もの神と森林をとつたるもとある近神と云ふ事と
事かの有りて内より神をもうしむる不
可見耳射ともはその内乃ち中央に數を被
る内を又はその内に居る内の取又は其事の内乃移
景が萬をもれとて多くうるふもの内もまやうるま
あらじて其事とて多くあらじて多くもあらじて
其の餘は出来とて多くあらじて多くもあらじて多く
出でる事ありヤトナリヒシテ來て射水とあれ
射水とてうちの内射水とて射水とて射水とて射水
ありて射水とて射水とて射水とて射水とて射水
射水とて射水とて射水とて射水とて射水とて射水

卷之二

三十二

うとも、垂々御内をあそびのめうといたまつる
事とあふて、今人後も、執のよきとくらむと見え
たり我おとたのどり、がの日は、もくうかんとす
佛のうちとす。ねえをあらとらひらきにゆくと、我おと
まみさうとす。ねえをあらとらひらきにゆくと、我おと
坐禪般食あくべりのひとひくぬくした佛流とた
り、佛とゆとゆく。まううきくまうく、佛流は
けくへきまうく、まうく。あらふかまうく、大會の様も、勝ちを置
わら、極喜ありまかせ。おもむく、あらうのくらむと、餘も
西が一とく、大日經才二とく、華數經才三とく、法華經うりりと、純
とだり、あらうと、大日經とだりしをまうく、大日經とまうく、今日乃
秋葉の住經であらと、思義庵那佛の後宮うり拝ひるも
か、前とやまうらが法佛の奉仰うりか、仰の法佛、かま
太日經と、住經と、金と、改乃く、かううゆと、高言の集
即身成佛と、ゆきのあらと、あらうと、

うれとぞ、さうり佛みうりのうち五六百年とげうり
堅國と、うけい財と、人魚人出、うりと、
うの金の、く、次乃く、百年ハ、祥吉、堅國、財と、
あり、金、次乃く、次の、み百年と、傳角、堅國と、
つけ財の、う、金、金、次乃く、次の、み百年ハ、多造堂寺
け財良、と、教、吉、堅、天台と、あ、の、財、陳隋
二代、と、出、と、金、金、の、と、うり、次の、み百年ハ、國祥
吉、白法、廢没と、みづいき、合、二、み百年、うり、是
と、みづいき、百罪と、ふ、と、い、白法、廢没と、ま、事、廢
財の、う、と、人、の、うち、偏曲と、い、顛倒と、と、い、
全、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、
乃、もの、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、
きたと、たと、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、
と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、
と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、
と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、

まことにあきのとまわれたり氣トモす
かのうちよりはるかのとまわれたり氣トモす
あふともはるもまづまんとやめれ歎トモのとまわ
耳アマる天下アマ耳アマ耳アマ耳アマ耳アマ
實ミツのわくぬまうものとわくまくらむ
食シタとゆりひあくま方カタのせ
まくらりあらぐくまくらのとくらアラれ
まくらまくらたぬくらやくく
ともくらくらふえひくら凡アラきくら
丸マツれとくらふる乃アラくらのまくらの地ジやくあらうくら
とくらきよえあくらうのとくらうのとくら
まくらもとくらわまくらあまくらもまくら
とくらくらふえくらのとくらうのとくら
わまくらうのとくらうのとくらうのとくら
おとくらうのとくらうのとくらうのとくら

卷中
銀物

糸物語中

あつてあじえぬのよからずと見てゐるが、繫累
のまゝやうな事有れどもとあくまづかれてきてせやアテん
徳經はひやうとせた中あるわまくいとやぢりと
法佛よとされおひらきがりまほ因縁乃時よわざ
びくとやくとば時ま前難代わゆと軍人の難ととてまわと
たのとく人全生いがまく十わせ者ありえれ西山の
良りしとくとんれ教正覓とらじとらじひりか今
きてよふ是をちとすじて十劫之毛一切衆生れりしゆと
きもよみうり今より報應よつとく止達十惡具諸不善又言
ありの十八分野よつとく沒我得佛十方の衆生至心信樂歌
聖我國乃む十念若不生者不取正覓もあり三十あれ
よ無聲歌歌すともにありがむれりあまくわくあら
念のまつてあらねをうとうへまくくらひにたれりが宗と
はあらまとやまれとくわづのよからずと見てゐる

さくもとて魏晉と云ひそりとひきあひるべく
此下にゆく說是晉時韋機時韋機時韋機
即見極矣世間の廣長之相得見佛身及二乘之深心生敬慕
未嘗有也廓然大悟乃垂生懸五百侍女發阿耨多羅三
説三善機心より出でて三般涅槃の事より成
佛とあと終きらやきらしく一善云韋機時韋機時韋
機時韋機時韋機時韋機時韋機時韋機時韋機時韋
人あまのくま下とくへあつてくわどくいのけ候と
黒の詔經由を乃まらかして修習とゆきまよつてあ
わくぐり実のまくらあくわいあけられ何といふ業よあらて
行のゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆ
えん章機時韋機時韋機時韋機時韋機時韋機時韋
えの実の眞よあくまうるまうじうじうじうじう
にありてこそ成佛とめうづり法界よありて成佛トヨウ
前半じつらまうらとづくづくとづくづくとづくづく
一
光とやまくあつてあらぬ光光明如來あらが
じぶら相如來かせんかんハ闍浮那挽金光如來りくまんハ
多摩羅跋栴檀香佛あくみハ法界如來あらん山海無
自在通王如來らうくハ躰セ寢死如來捨陳如來ルハ五百
七百人の壽命如來はま無量の二千人の寔相如來けくさん
萬劫をす光相如來もつてどどくも天王如來スラムラム
くもじてある方しぜうく成りとくめり他えあくまう成
かげぬうしてくまくまくまのまいあけれん悟ノ般陀羅帝
ふかくして實のまくらまくらまくらまくらまくらまく
女ありとも苦上極上智とあはれ今時の下根下智
ありてあくわくけねがうめしもくに深解徹あまく
今時のまくらまくらまくらまくらまくらまくらまく



あ法さすもれ經のりけほうのまうひをすくに捨利糸
しの女の人へかげ給とたむらテアク教そのゆふと一切法のゆふ
わしね無う也法華四巻寶塔品之偈曰此經難持若暫持
者我即歡喜諸佛亦然如是人諸佛所歎是則勇猛是則
精進是名持戒行頭陀者則為疾得至上佛遂能發來世
續持此經是真佛子同二巻菜王品之偈曰此經者則
為廣深提人病之良藥也若人有病得聞是經病即消滅
不老不死上經文妙事の今云乃は教亦より久のうち
より女人子もかげ給とうけながら題自どどうやうも成せ
まうひもざくらせのよけを仕ゆるひもくひもくひも
せんかくもかくらせのよけをやさん熱して修心外教と汝す
にあそてみか想二つに別へ熱より六弘誓願之別八葉門
の天教教のめ百れ大教三教八教あり四弘誓願教は
公氣中無も折教變頗懶無も折教斷法門せきを誓
教智無上萬梵教も教化うりけに弘乃中に始の焉ハ覺他
中で自覺して根もとづいた中間無と是の梵の教と成せられ
半の三教中せうくお定の教と成らう自のまうの三教もう
つまうドウとけ時の法教とのくちをあよあようて法教
をもあわせそ毎とがめの教とづいた教法圓覺うりもと
有もともと教の三教もと教葉もとづいたの本の根わう時
に教葉もとづくと根うたれた教葉があるは圓教八教等
もあくまく教葉乃持教葉もとづんと教的うきよもく根がく
強化まく實のが教と教葉もとづくべからずの初頭の教も
葉葉小鬼の如く嘗めれどもかくと見てトとわじ小

已成佛道。くづら二種事。仏と法も。此處の小言。今法
教乃用云。あくべりて佛と教せり故よ。皆已成佛道と
說す。之あまくにて人ね延陀會。乃行者。下まく。法
教の用云。と。教。御國佛經。と。あるく。り。や。まく。本氣に
繖。法經と。くわゆ。經。に。ありて。獨一法界。乃。教。と。ある。り。り。の。如。是。
たゞ。へ。法河の。あ。大。海。よ。あ。れ。の。一。味。と。あり。り。の。如。是。
さ。しけ。あ。く。と。も。と。經。類。用。云。と。す。く。と。く。ゆ
き。く。と。く。三。般。の。み。ざ。く。と。く。三。教。經。内。も。さ
き。半。劫。正。學。の。三。經。と。法。華。三。卷。化。滅。喻。經。の。法。曉。毛
公。三。子。戲。鷲。初。已。未。大。通。佛。の。法。り。と。下。十。六。生。ま。み。か。す。と。
才。れ。だ。ん。り。く。時。わ。け。經。と。も。そ。う。と。そ。く。り。あ。る。と。や
經。代。說。す。け。と。し。と。西。方。の。つ。経。よ。稱。う。け。り。わ。く。も。と。け
さ。れ。や。に。及。り。て。ふ。あ。は。な。ら。む。法。華。三。の。事。と。ゆ。う。く。と
三。三。の。化。身。王。お。の。法。身。乃。く。り。し。第。三。の。業。身。が。是。

本圓と。あ。り。り。の。之。故。經。即。往。安。東。世。累。阿。彌。陀。佛。と。
況。り。少。く。う。教。經。の。と。十。方。優。望。西。方。十。劫。而。覓。の。あ。る。と。と。う。
の。こ。こ。た。く。の。迷。中。北。九。界。と。懶。が。れ。界。の。と。く。ま。る。同。る。
之。大。ち。ん。大。よ。而。自。と。三。經。經。う。と。の。經。覺。新。經。と。經。多。教。と。有。
見。の。法。經。う。と。方。後。乃。と。三。般。よ。教。よ。教。と。と。あ。へ。と。教。と。
き。り。極。法。經。う。と。義。經。無。經。中。來。せ。く。と。化。の。も。あ。り。
般。よ。教。と。ロ。ア。ト。教。の。空。法。經。の。序。分。無。事。と。教。と。自。
文。經。證。一。而。義。各。り。失。く。又。天。台。出。於。よ。く。圓。覺。經。與。
如。流。經。行。等。都。不。顧。更。指。般。經。孫。陀。經。等。意。已。獨。教。乃
え。ろ。く。く。と。ん。に。と。あ。ま。と。ヤ。ク。と。よ。ま。く。じ。こ。教。經。の。と。う。法。經。
の。ま。と。用。と。と。脚。と。と。脚。と。あ。う。ゆ。と。を。ば。と。む。ま。
の。ほ。く。と。金。と。あ。き。と。う。く。が。れ。と。き。セ。と。ん。教。の。ま。
業。の。か。圓。と。教。を。れ。が。金。と。教。の。教。の。教。の。圓。う。り。如。
實。の。圓。と。教。を。え。と。あ。う。と。う。教。お。教。と。の。教。と。
ハ。教。教。乃。教。と。ま。あ。と。ま。う。と。う。大。芻。離。と。教。乃。教。よ



まもられの事とおもひてあらじや圓とすまうるさ
きあくせくおもひわづらひがびへりきてや圓か
つまくわおよどりてんとおまえに座ぢごく男よりてくらの風流を
あくびゆかきめちくまのあら男よりてくらの風流を
碧くぬく人男よ生まれた佛の教とみゆとあく時をす
の豊男とうとくあくわすき法とゆきあくくわすき
てふく男よあら三男二十みちと沉精仕ひくの車比かとわ
くわくもく無能うちくれこたな男よあら仕あく肩より食ら
食ふむり食うり入まにあまく食あく八歳よ幼うり沙舟
けりと耳もあくとも意もきとくくけりとくあたよまくと
ありは松ももとくわくわくあくわくてす後よりくまくわく
人中生とれや公がとくわくとおぬきよ毛ハヌ戒十善戒と
なむづきと決する内所の淨土、往キとくをもとめざす本の
三教統法總説の念公乃く之をもとめざす本の
者よりおぞとお体をとめや來れ對付、余がふかく

法身はその般若と現三教の如きを爲すから外境と現身との如きをも
まことにあてらうてからうるあるもの哉がひやみをゆきま
わのよしゆはと念ねども其處國界はもんじゆともあり
もんに言ふみを般若一神ありもんが理無理用のありも
とあるくわくせよまんね般若のあり一塵一尾を
性うて大猪肩輪轍般若卷一
痴ちううのううれいづくをかくはのれいづくをかくはの
あもうへきあはしきへきあはしきへきあはしきへ
わ象へきむきうち和色心三帰三昧れり御へ
もやくくたのまうあんよだれの三昧へと三帰と
お詫ねに用ひあえ未だ大師の戒めまつまく而二忘ふ二者
而爲た不二忘而二事爲たと是ありすまくとく而二不二
とふもとて作と法と二神へとすまく佛と菩薩と心の事あり
らん猪肩輪轍とくとくに大猪肩と云はばとありて
もくとくとくのれり

卷之三

列女

成佛せむ勢あるも公もあて法をより者とすもひきもく
久遠からりとありてもひきの極難事也二事にすと度我ら
とどみゆくさん亦かく法難とのまこと法難とすか今とらひひきの法
難をよきめ者がみち見て法難より我をも參まのまうと開
せんあより教せ者はち今すかくの法難と居らひの下へ法難と
ゆきが教難者大會ともりけりて利生すくぐらや事あく又法
免の是日もやうい乃る年にはうれうめおとこうく年せの事難
地基原之奥義三世萬象之所也深也絶やうけざりくも法難
世もの大根大覺の由法え往來もとまひわそ十駕とづけりきの
ときと便りして法住よりりとて二世大法弘達の法術あり
のうちみとあくつるもあひのまく法のぬをうひきくへ
妙法を身に持性の定め本心不變のもあわうてせ能業教不
轉不去も身外化れおきのめのめの平劫無量劫也集
乃くも身も身も身も



論語曰遇見勿體故



義もあらうまいとおもひ先支費食へてあるであつた
やうに種姓を相ひ法ありあんともいひゆるがそん
ときも相あらうりきあれども以て無事よしとくに言ふ
ときもしてほよしとちかひゆきとまつて東洋の櫻と
あらゆる花とくに言ふて一言もよし理に無れあり
言ふてあらゆる花の木を以ひ傳ひとひりあらゆる
因縁の無事ありとり大の眞言がさうきくして紫
雲の竹の木をすくめとて八角とけいと持ひてお數
えすくふ現とてあらゆる木をあんそくよ難
難伏せざるをうやむや日夜よ化乃ゑとくもくらうる
能ひふとくとくあり
着衣もぬれぬよ程ありと
あらゆる木をすくわやまつりとも相ともあまくと年相う
有相即身相素即身あまくと年相うりせ儀
字すぐもの程えりてそんや年相の今まとも走字即解脱



5年月



